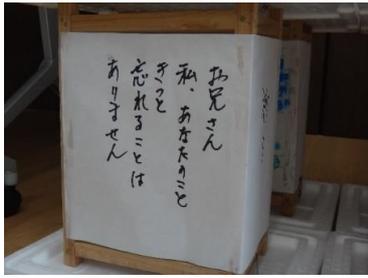


7月11日 雨で延期した灯籠流し



6月の交流会で大川の灯籠流しを企画してましたが、悪天候で中止になりました。南郷地区の防潮堤に飾り祭壇も準備しました。避難された方から大川に献花していただき会場の皆さんで冥福を祈りました。大川でのこのような開催は南郷地区だけで地元マスコミも取材に訪れ紙面に掲載され、市民にお伝えしてもらいました。



犠牲者
日暮れに灯籠 気仙沼市南郷

東日本大震災から4年4月となった11日、気仙沼市南郷の大川堤防沿いに犠牲者を弔う灯籠が並べられ、写真、地区民らが手を合わせた。

南郷地区を支援している秋田パドラーズの気仙沼支部が主催。日が暮れるのに合わせ、秋田市民が作った灯籠52個のろうそくに火がともされた。

灯籠には地元民が「絆」「愛」「祈り」などの文字を書いたほか、愛耕幼稚園児によつてかわいらしい絵も描かれた。

地区民や災害公営住宅の住民らが集まり、全員で黙とうをさげ、代表者が献花したり、酒をさげたりした。「どこにいるの。帰ってきて」と語り掛けながら手を合わせる人もいた。

夫の敏忠さんを津波で亡くした崑山チヨ子さん(73)は「4月に避難先から帰ってきたことを(敏忠さんに)報告した。やっとお墓もできたし、これで一区切りついたかな」と話した。

7月18日 語り継ぎ聞き継ぐ秋田西高等学校 -1



秋田県立秋田西高等学校の生徒さんから秋田での「語り継ぐ、聞き継ぐ」の講演後に、被災地に訪問したいと希望があり企画しました。



東日本大震災の記録と津波の災害史 常設展 1階企画展示室

観覧料＝一般300円／大学 高校生200円／小・中学生100円 ※20名以上の団体料金は各50円引き
＜同チケットで美術展示・歴史民俗展示もご覧いただけます。＞

気仙沼湾の入口(津波が入り込んだ所)の岩井崎です。津波で被害の遭った松の木を一部伐ったところ、竜の姿に見えると評判になり、多くの人が訪れる場所になりました。当時の街の状況が分かる「リアスアーク美術館」は被災時の写真、瓦礫となった船、車の一部、破裂したガスボンベ、暮らしに使われたもの等が展示されています。